

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育相談支援	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 松本 貴子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保育者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標) ] 保護者支援の理論と技術を学び理解し実践できる力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. この教科で何を学ぶか理解する。 保育相談支援の歴史 2. 保育相談支援の対象 保育相談支援が行われる児童福祉施設とは。 3. 保育相談支援が必要な社会的要因 保育相談支援の目的 4. 保育相談支援の原則と考え方 保育者の守秘義務 5. 保育相談の場づくり、保護者への理解 相談にかける時間について 6. 保育相談支援の実践過程について 相談支援の連携機関について 7. 保育相談の実践過程での留意点 面談以外の方法の提示 8. 支援対象に対する留意点 相談を求めてこない人へのかかわり方 9. 面談の技術について 保育者の自己理解 10. 電話相談の利点 電話相談の留意点 11. 記録を作成する意義 記録を取り扱う上での留意点 12. <演習>身近な相談を受けてみよう。 <演習>相談内容から記録(フェイスシート)を作成しよう。 13. <事例研究>これまで学んだ面談の技術を活用してみよう。 <グループ研究>保護者の生活課題に対する提案 14. <プレテスト>到達度を目で見えて確認しよう。 <DVDの視聴>実際の保育相談の場面から自分なりの対応を考える。 15. 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 演習「保育相談支援」(萌文書林) 適宜 プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実践演習	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 佐藤 恵美子 (実務経験者)			
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] ・ 保育養成における学びが実際の保育にどの様につながっていくのかを、学生自ら課題に気づき意識して保育実践に臨むことができる。 [授業全体の内容の概要] ・ 前半では主に児童文化財の実践効果について学び、実際にパネルシアターを制作しその技法を身に付ける。後半これまでの取り組みを振り返り自己理解を深めた上で保育実践の持つ意義を理解し、保育者としての仕事の準備となる知識を深める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標) ] ・ 児童文化財別に実践の場へつなげられるための知識・技術 (パネルシアター) を習得する。 ・ 保育現場での具体的な事例・問題へ取り組むことで、保育者の実践について理解を深める。 ・ 保育者としての使命感、責任感、倫理観を理解し、自信を持って保育専門職としての仕事に臨む姿勢を持つ。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">                             1. 様々な児童文化財について                              2. 児童文化財の活用方法                              3. パネルシアターによる効果と技法について                              4. パネルシアター制作の計画                              5. パネルシアター制作の実践                              6. 大型絵本による効果と技法について                              7. 大型絵本制作の計画                              8. 大型絵本制作の実践                              9. 大型絵本制作の実践                              10. 大型絵本制作の実践                              11. 大型絵本制作の実践                              12. パネルシアターの実技実践                              13. パネルシアターの実技実践                              14. パネルシアター他者の実技考察                              15. パネルシアター他者の実技考察                         </td> <td style="width: 50%; border: none;">                             16. 保育・教職実践演習の目的                              17. 履修カルテの意義と実践                              18. 幼稚園教育・教育についての理解①                              19. 幼稚園教育・教育についての理解②                              20. 乳幼児・児童についての理解①                              21. 乳幼児・児童についての理解②                              22. 他者との協力①                              23. 他者との協力②                              24. コミュニケーション①                              25. コミュニケーション②                              26. 教育課程・保育課程に関する基礎知識①                              27. 教育課程・保育課程に関する基礎知識②                              28. 保育実践①                              29. 保育実践②                              30. 定期試験                         </td> </tr> </table>				1. 様々な児童文化財について 2. 児童文化財の活用方法 3. パネルシアターによる効果と技法について 4. パネルシアター制作の計画 5. パネルシアター制作の実践 6. 大型絵本による効果と技法について 7. 大型絵本制作の計画 8. 大型絵本制作の実践 9. 大型絵本制作の実践 10. 大型絵本制作の実践 11. 大型絵本制作の実践 12. パネルシアターの実技実践 13. パネルシアターの実技実践 14. パネルシアター他者の実技考察 15. パネルシアター他者の実技考察	16. 保育・教職実践演習の目的 17. 履修カルテの意義と実践 18. 幼稚園教育・教育についての理解① 19. 幼稚園教育・教育についての理解② 20. 乳幼児・児童についての理解① 21. 乳幼児・児童についての理解② 22. 他者との協力① 23. 他者との協力② 24. コミュニケーション① 25. コミュニケーション② 26. 教育課程・保育課程に関する基礎知識① 27. 教育課程・保育課程に関する基礎知識② 28. 保育実践① 29. 保育実践② 30. 定期試験
1. 様々な児童文化財について 2. 児童文化財の活用方法 3. パネルシアターによる効果と技法について 4. パネルシアター制作の計画 5. パネルシアター制作の実践 6. 大型絵本による効果と技法について 7. 大型絵本制作の計画 8. 大型絵本制作の実践 9. 大型絵本制作の実践 10. 大型絵本制作の実践 11. 大型絵本制作の実践 12. パネルシアターの実技実践 13. パネルシアターの実技実践 14. パネルシアター他者の実技考察 15. パネルシアター他者の実技考察	16. 保育・教職実践演習の目的 17. 履修カルテの意義と実践 18. 幼稚園教育・教育についての理解① 19. 幼稚園教育・教育についての理解② 20. 乳幼児・児童についての理解① 21. 乳幼児・児童についての理解② 22. 他者との協力① 23. 他者との協力② 24. コミュニケーション① 25. コミュニケーション② 26. 教育課程・保育課程に関する基礎知識① 27. 教育課程・保育課程に関する基礎知識② 28. 保育実践① 29. 保育実践② 30. 定期試験				
[使用テキスト・参考文献] ・ 必要に応じて資料プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験と提出物課題の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合			

# 授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育の造形表現Ⅱ	授業の種類 (講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・実習)	授業担当者 溝口 敏美 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>幼児の知的好奇心や豊かな感性を育成できるよう美的環境や玩具・遊具を作成し、活用法を考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>幼児の発達段階に即した遊具・玩具を身近な素材を用いて美的・創造的に製作する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>幼児を良く理解し、美的・総合的な作品づくりが工夫でき、多様な遊び方を展開できるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 「幼児の発達段階における造形表現について」</p> <p>2～7 「物語を絵にする」 絵芸居の制作や絵カードの制作と演出</p> <p>8～11 「土の玩具」 粘土でお飾りや動物の玩具作成、焼成、彩色</p> <p>12～15 「遊具・玩具の製作」 身の回りの日用品を使って、伝承玩具、パクパク人形、木登り、びっくり箱等の製作 色コマを製作中間混合を演出する</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・授業態度と、各課題の提出物で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の言語表現	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 姉崎 みどり (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>児童文化財である言語表現教材の基本的な扱い方や演じ方を学び、環境構成や具体的展開のための技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の保育現場で実践できる技術を習得するため、繰り返し実践を行う。</li> <li>・ 保育者の援助や環境の構成について具体的に考える。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児が遊びや生活の中で言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解できる。</li> <li>・ 乳幼児の体験との関連を考慮した言語表現教材の実践をすることができる。</li> <li>・ 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、実際の保育の場を想定した実践をすることができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. パネルシアターについて</li> <li>2. パネルシアターの実践</li> <li>3. パネルシアターの実践</li> <li>4. パネルシアターの実践</li> <li>5. 大型絵本について</li> <li>6. 大型絵本の実践</li> <li>7. 大型絵本の実践</li> <li>8. 大型絵本の実践</li> <li>9. パペットをお話について</li> <li>10. パペットを使ったお話の実践</li> <li>11. パペットを使ったお話の実践</li> <li>12. パペットを使ったお話の実践</li> <li>13. ストーリーテリングについて</li> <li>14. ストーリーテリングの実践</li> <li>15. ストーリーテリングの実践</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] ・ 必要に応じてプリントを配布する。		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 提出物課題の修得状況が到達目標の 6 割以上と認められる場合	



# 授業概要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育の音楽表現Ⅳ	授業の種類 (演習)	授業担当者 竹内公一・佐々木陽子・中澤美和子 江口裕子・渡邊若菜・坂井恵美子・玉橋寿子 (全員 実務経験者)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期
		必修・選択 選択

**[授業の目的・ねらい]**

保育現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き歌いを基礎から習得する。

**[授業全体の内容と概要]**

各クラスを2グループに分け、全体レッスン受講以外の学生はピアノの個人レッスンを受ける。全体レッスンでは声楽レッスンを取り入れ、コード伴奏による童謡の弾き歌いをできるようにする。個人レッスンではグレード制(歌唱教材伴奏法による)を取り入れ、個人の進捗状況に合わせて担当教官の指導を受ける。

**[授業終了時の達成課題(到達目標)]**

- ・ハ、ニ、ヘ、ト長調、ニ短調のスケール・4種のコードによるカデンツの習得。
- ・ハ、ニ、ヘ、ト長調、ニ短調の簡単な童謡をコード伴奏で弾けるようにする。・グレード5級(歌唱教材伴奏法 no.61 と no.62)の取得。

**[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]**

2年後期	理論・合奏他	スケール	コード	実践	個人レッスン
①		C.D.F.Gdur	C.D.F.Gdur	夏休み課題 Cdur せんせいとおともだち 片手 Cdur やきいもグーチャーパー 片手	
②				両手 Cdur はをみがきましょう 歌・片手	
③				弾き歌い	両手
④	合奏 パート決め			Fdur まつぼっくり 歌・片手	弾き歌い
⑤	練習			両手 Fdur 山の音楽家 歌・片手	
⑥	練習	C.D.F.Gdur d moll	C.D.F.Gdur d moll	弾き歌い	両手
⑦	練習			Cdur さんぼ 歌・片手	弾き歌い
⑧	発表			片手 Fdur ゆき 歌・片手	
⑨				両手	両手
⑩		C.D.F.Gdur と d moll スケールカデンツ小テスト		弾き歌い	弾き歌い
⑪				d moll うれしいひなまつり 歌・片手 Cdur おもいでアルバム 歌・片手	
⑫				両手	両手
⑬				弾き歌い	弾き歌い
⑭	復習				
⑮	実技試験				

**[使用テキスト・参考文献]**

- ・ こどもの歌ベストテン ドレミ出版
- ・ 歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる 教育芸術社

**[単位認定の方法及び基準]**

- ・ 単位取得には8割以上の出席が必要
- ・ 実技試験と筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 乳児の発達と保育Ⅲ	授業の種類 (講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・実習)	授業担当者 長谷川 智子(実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の計画を作成し保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。</li> <li>2. 乳児保育における保護者や関係機関との関わり、及び乳児保育担当者の実際について学ぶ。</li> <li>3. 乳児保育の理念と役割、現状を学ぶ。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>上記1については、テキストや参考資料及び保育所実習の経験を基に、実際に連絡ノートの記入、計画作成を行う。上記2については、テキストや参考資料及び事例を基に学び、知識を習得していく。上記3については、テキストを基に理解を深め、保育者としてこれから何をすべきか考えていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育における指導案の計画および家庭との連絡ノートの記入ができる。</li> <li>・ 保護者や関係機関との関わり及び乳児保育担当者の実際について、適切な実践を理解している。</li> <li>・ これから乳児保育に携わる者として、現状と役割を述べるができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 保育の記録と保育①</li> <li>3. 保育の記録と保育②</li> <li>4. 保育の記録と保育③</li> <li>5. 保護者とのパートナーシップ①</li> <li>6. 保護者とのパートナーシップ②</li> <li>7. 保護者や関係機関との連携</li> <li>8. 乳児保育担当者の実際①</li> <li>9. 乳児保育担当者の実際②</li> <li>10. 乳児保育担当者の実際③</li> <li>11. 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場</li> <li>12. 乳児保育の現状と課題</li> <li>13. 新制度と乳児保育に関わる課題</li> <li>14. これまでの学びとまとめ</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『乳児の保育新時代』 (ひとなる書房)</li> <li>・ 必要に応じて資料プリント配布</li> </ul>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位取得には8割以上の出席が必要</li> <li>・ 筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合</li> </ul>	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 専門演習Ⅱ	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 保育者養成における学び、および保育実習での経験を振り返ることで、これらが実際の保育にどのようにつながっていくのかを、学生自らが気づき課題を見つけて主体的に取り組み学ぶ。 [授業全体の内容の概要] ・ 保育実習の意義・目的・内容・方法を理解するとともに、保育場面での留意すべき事柄を確認する。 ・ 実習報告会を通して自分の実習体験を振り返る。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 授業を通して実習課題を明確化したうえで、実習での学びが保育者という職業への意欲の高まりへとつなげるようにする。 ・ 実習報告会で他者の報告を聞くことで、様々な保育観・保育方法を知り、新しい視点で保育を考えるヒントを得る。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]  1. 実習後、自分の保育技術・適正について振り返る 2. 保育観について考察する 3. 知識を保育行為として具体化していくために 4. 保育実践力を構成する要素について考える 5. 指導計画の重要性・実践と省察の積み重ねを通じて理解する 6. 日々の記録をもとに、子どもを理解する 7. 発達の面から保育を振り返る 8. 理解し難い子どもの行為をどのように受け止めたらいいかについて 9. 幼児期の発達の特徴と育ちの見通しにおける意味を学ぶ 10. 子どもの自発性・能動性を引き出す環境とは何か考える 11. 自ら育つ保育者となるために 12. 保育実習報告会に向けて 13.         " 14.         " 15. 保育実習報告会を終えて ～更なる自己研鑽への道を明確にするために～			
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料プリントを配布する		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験と提出物課題の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合	



# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 障がい児保育Ⅱ	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 坂井 直子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害の種類や特性、障害児保育のあり方など、障害児保育に関する知識を得、理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>様々な障害の特性を理解し、一人一人の発達にあわせた援助について理解を深める。個別の保育計画を作成し、集団生活の中でも、対象児の発達に合わせた成長を促すことができる保育実践について理解を深める。また、健常児と障害児がかかわり合うことで、ともに育ち合うことができる保育について考える。さらに、障害をもった子どもの保護者への援助方法や、関係機関との連携により、障害児を支える仕組みについて学ぶ。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフステージを見通した障害児保育を考える</li> <li>2. 障害と出会う時-障害受容について学ぶ</li> <li>3. 障害児保育の基本・統合保育について学ぶ</li> <li>4. 障害の理解と支援-発達障害の概要について学ぶ</li> <li>5. 障害の理解と支援-ADHD</li> <li>6. 障害の理解と支援-LD</li> <li>7. 障害の理解と支援-自閉症スペクトラム障害</li> <li>8. 障害の理解と支援-気になるこども</li> <li>9. 障害の理解と支援-その他虐待等による精神障害</li> <li>10. 様々な連携について学ぶ</li> <li>11. 小学校とのなめらかな接続について学ぶ</li> <li>12. 思春期・青年期の生活について学ぶ</li> <li>13. これまでの障害児保育の歴史や考え方について学ぶ</li> <li>14. ライフステージを見通した、幼児期への支援の重要性とあり方を考える</li> <li>15. 期末考査</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・尾崎康子ら やわらかアカデミズム・&lt;わかる&gt;シリーズ よくわかる障害児保育 第2版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・単位取得には8割以上の出席が必要</p> <p>・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合</p>	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 社会福祉特論	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 大矢 アキ子	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育士が福祉の専門職として位置づけられているにもかかわらず、保育士をめざす学生にとって、社会福祉は、理解するのにハードルの高い科目になっている。ここでは1年次に学んだ社会福祉の知識を基礎に、保育士の立ち位置からの社会福祉に特化して講義を進め、保育の現場で使える知識・技術の習得を目指します。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1年次に学んだ社会福祉の基礎概念を基に、社会福祉の歴史を振り返り、社会福祉と保育士のこれからを考えます。人の一生と社会福祉の関連を切り口に、基本的な社会福祉制度の理解を進めます。グループワークを中心に、制度を調べ発表します。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>社会福祉専門職としての保育士としてのあり方について明確に自分の考えが言えること。基本的な社会福祉制度の理解が出来ること。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入、人生と社会福祉</li> <li>2 1年次で学習した社会福祉を確認</li> <li>3 社会保障制度とは何か</li> <li>4 社会福祉制度を調べてみよう      グループワーク    医療保険制度    障害者福祉制度</li> <li>5 社会福祉制度を調べてみよう      グループワーク    年金保険制度    介護保険制度</li> <li>6 社会福祉制度を調べてみよう      グループワーク    生活保護制度    こども</li> <li>7 社会福祉制度を調べてみよう      グループワーク    子ども子育て支援制度    等</li> <li>8 確認テストに挑戦</li> <li>9 障害者福祉の歴史    DVD    糸賀一雄の生き方を知る</li> <li>10 社会福祉の実施機関と行財政</li> <li>11 社会福祉の施設</li> <li>12 権利擁護と苦情解決    他分野との連携とネットワーク</li> <li>13 先駆的な保育を見てみよう      DVD    参考にしよう、子どもの能力の伸ばし方</li> <li>14 社会福祉と保育士のこれからを考えよう    社会福祉専門職としての保育士の倫理</li> <li>15 定期試験 (期末)</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・保育と社会福祉    橋本好市・宮田 徹 (株) みらい</p> <p>参考文献</p> <p>・社会福祉    青鞥社</p> <p>・図解で学ぶ保育社会福祉    萌文書林</p> <p>・社会福祉小六法</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・単位取得には8割以上の出席が必要</p> <p>・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合</p>		

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 社会的養護内容	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 )	授業担当者 佐藤 彰 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>児童福祉施設を利用する子どもたちは様々な事情を抱えており、児童福祉施設の職員は、その状況を十分に理解し、子どもの日常生活に寄り添いながら、援助者としての適切な対応を行わなければならない。本授業では、施設で生活する子どもが抱える問題や課題について事例を通して考察し、援助者としての支援方法や援助技術の在り方について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>こどもの理解を踏まえ社会的養護の基礎内容について理解する。 施設養護ならびに家庭養護の生活特性及び実際を学ぶ。また様々な支援計画、記録が作成できるようになる。保育の専門性と相談援助の知己ならびに技術の習得を図る。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的養護の内容を理解できる。</li> <li>・ 社会的養護の実際を理解できる。</li> <li>・ 社会的養護における支援の計画・記録・自己評価を理解できる。</li> <li>・ 社会的養護に関する関わる専門的技術について事例を通して理解できる。プロセスについて理解し説明できる。</li> <li>・ 社会的養護の課題と展望について自分の考えを持つことができる。</li> </ul>			

<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護にかかわる施設での保育士の役割</li> <li>2. 保育士の倫理・専門性</li> <li>3. 社会的養護の理念と役割</li> <li>4. こども権利とは</li> <li>5. 施設での暮らしの実際と権利擁護</li> <li>6. こどもの権利を守るしくみ</li> <li>7. 施設養護のプロセス I</li> </ol>
---

<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 施設養護のプロセス II</li> <li>9. 事例検討・養護施設の実際 I</li> <li>10. 事例検討・養護施設の実際 II</li> <li>11. 事例検討・養護施設の実際 III</li> <li>12. 事例検討・養護施設の実際 IV</li> <li>13. 事例検討・養護施設の実際 V</li> <li>14. 事例検討・養護施設の実際 VI</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>
---

<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これならわかる！子どもの保健演習ノート 小林美由紀著・診断と治療社</li> <li>・ 必要に応じて資料プリント配布</li> </ul>
--

<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位取得には8割以上の出席が必要</li> <li>・ 筆記試験と提出物課題の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合</li> </ul>
--



# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 家庭支援論	授業の種類 ( 講義・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 松本 貴子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>家庭の意味(定義)、基本的機能をおさえた上で、子どもの健全な発達や社会の発展の ために果たす家庭の役割、子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学習し、家庭支援の必要性を理解する。家庭のニーズに応じた多様な子育て支援の方法、関係機関との連携などについて身近な地域(居住地)の実態を通して、保育者として可能な支援を考える。</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>多様性を増し変化し続ける家庭の姿を知り、家庭支援に必要な知識を身につけ実践できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <p>1、家庭の意義について ・家庭とは・生活の場としての家庭・事例検討</p> <p>2、家庭の機能について ・家庭支援の視点・子育て中の家庭の機能・事例検討</p> <p>3、家庭支援の必要性 ・社会の基礎単位としての家庭に変化・社会の基礎単位としての現代の家庭・事例検討</p> <p>4、保育士等が行う家庭支援の原理 I ・家庭支援の理念・子どもの発達と家族・事例検討</p> <p>5、保育士等が行う家庭支援の原理 I II ・保育士による家庭支援・家庭支援の展開・事例検討</p> <p>6、現代の家庭における人間関係 ・コミュニケーションと子育て・家庭における人間関係・事例検討</p> <p>7、家庭生活を取り巻く社会的状況 ・地域社会の変容と家庭支援・住民による近隣の子育て支援活動・事例検討</p> <p>8、男女共同参画社会とワークライフバランス ・男女共同参画社会・ワークライフバランス・事例検討</p> <p>9、子育て家庭の支援体制 ・子育て家庭の福祉を図るための社会資源・住民による家庭支援活動・事例検討</p> <p>10、子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 ・子育て支援策・次世代育成・事例検討</p> <p>11、子育て支援サービスの概要 ・子育て支援サービスの概要・課題がある家庭への支援・事例検討</p> <p>12、保育所よる家庭支援 ・保育所の子育て支援機能の活用・家庭の課題への対応・事例検討</p> <p>13、子育て支援と保護者の関係づくりへの支援 ・プログラム型子育て支援活動・保護者の関係づくりへの支援・事例検討</p> <p>14、地域の子育て家庭への支援とこれからの子育て支援サービスの課題 ・地域の子育てひろば・家庭への支援 子育て支援サービスの課題 ・要保護児童及びその家庭に対する支援と連携・事例検討</p> <p>15、試験</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭支援論 (萌文書林)</li> <li>・ 保育所保育指針解説書 (フレーベル館)</li> <li>・ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)</li> </ul>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位取得には8割以上の出席が必要</li> <li>・ 筆記試験と提出物課題の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合</li> </ul>	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と表現Ⅱ	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 小林 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子ども自身が感じたことや、考えたことを自分なりに表現することで、豊かな感性や表現する力が育つことを学ぶとともに、それらを援助するための基礎を習得し、実技を体験することで子どもたちへの支援・援助について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの表現活動の援助・指導について学ぶ。幼児の表現活動の特徴について理解し、幼児の活動を援助する為に必要な基礎技術を身につける。また学生自身が表現遊びの計画・実践・評価ができるような参加型の授業として進める。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの表現活動は生活と密接な関係があり、保育の現場において、表現することの喜びや表現を楽しむ「態度」を培うことの大切さを知る。</li> <li>・子どもの表現活動における理論と実践について触れ、保育の現場での指導に役立つ技術とその具体的な方法を習得する。</li> <li>・自分自身が、体で様々なことを感じたり、考えたり、表したり、他者との関わりのプロセスを楽しみながら多様な活動を通して表現力を高める。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション オペレッタ導入 (オペレッタの視聴、グループ分け、役決め等)</li> <li>2. オペレッタの準備</li> <li>3. オペレッタの準備</li> <li>4. オペレッタの練習</li> <li>5. オペレッタの練習</li> <li>6. オペレッタの練習</li> <li>7. オペレッタ・リハーサル</li> <li>8. 各グループによる改善練習</li> <li>9. オペレッタ実技、発表、まとめ</li> <li>10. 手話ソングについて知る、歌の指導方法を学ぶ</li> <li>11. グループ分け、練習</li> <li>12. 手話ソングの練習</li> <li>13. 手話ソングの練習</li> <li>14. ミニ発表会</li> <li>15. 筆記テスト</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 必要に応じて資料プリントを配布する		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位取得には8割以上の出席が必要</li> <li>・各活動での表現力や行動力等が到達目標の6割以上と認められる場合</li> </ul>	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と人間関係	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 小林 智子 (実務経験者)
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期
必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容「人間関係」について、その内容と具体的な指導法を理解する。子どもの目線に立った人間関係の構築とその指導法を習得する。それらを通して、保育現場における洞察力・課題発見能力、更には自己の人間関係形成力を高めることを目指す。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園生活における様々な乳幼児の人間関係に関する知識を学び、保育内容「人間関係」のねらい・内容について理解する。併せて、具体的な保育実践事例を通して、子どもの人との関わりについて学び、その力を育むための保育者の実践的な援助の在り方について理解を深める。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針における「人間関係」のねらいと内容を理解できる。</li> <li>・ 乳幼児の様々な「人間関係」の育ちや芽生えについて、発達の観点から総合的に理解することができる。</li> <li>・ 乳幼児の人間関係に関する保育事例を通して、保育者としての具体的・実践的な援助方法について考察する力を身に付けことができる。</li> </ul>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針・保育内容「人間関係」への理解を深める</li> <li>2. 人の関わり方のパターン理解について</li> <li>3. 人間の生から死までの時期の分類について</li> <li>4. 「人間関係」を支える基本的考え方、保育者が感性を磨くための姿勢について</li> <li>5. 乳児期における人間関係の成長発達① (愛着・信頼関係、指差し行動など)</li> <li>6. 乳児期における人間関係の成長発達② (人見知り、模倣遊びなど)</li> <li>7. 「児」という捉え方による集団での区分方法について理解する</li> <li>8. 自己肯定感の獲得に向けた援助・配慮について</li> <li>9. 幼児前期における人間関係の成長発達① (イヤイヤ期、役割分化の始まりなど)</li> <li>10. 幼児前期における人間関係の成長発達② (ふり遊びの活発化、ルール・コミュニケーションの始まりなど)</li> <li>11. 幼児後期における人間関係の成長発達① (個々の育ちに着目して学ぶ)</li> <li>12. 幼児後期における人間関係の成長発達② (集団としての育ちに着目して学ぶ)</li> <li>13. 幼児後期における人間関係の成長発達③ (ごっこ遊びから得られるもの)</li> <li>14. プレテストの実施</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『保育内容 人間関係』 (萌文書林)</li> <li>・ 最新保育講座8 保育内容「人間関係」 (ミネルヴァ書房)</li> </ul>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位取得には8割以上の出席が必要</li> <li>・ 筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合</li> </ul>	

# 授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの食と栄養Ⅱ	授業の種類 ( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	授業担当者 内藤 照美 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>小児の適正な心身発達の一助となるよう、献立作成、調理、盛りつけ、配膳等の実際についての基礎知識及び技能を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>消化能力の未発達な、また抵抗力の弱い小児の食事を用意するのであることを念頭におき、特に調理法、衛生面等に配慮して行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>小児の栄養と食生活の重要性を理解し、献立作成、調理、盛りつけ、配膳等の実際についての基礎知識及び技能を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養所要量、食品構成、献立作成</li> <li>2 食品中に含まれる糖分、塩分の測定</li> <li>3 妊娠、授乳中の栄養と実習</li> <li>4 離乳初期の実習</li> <li>5 離乳中期の実習</li> <li>6 離乳後期の実習</li> <li>7 離乳完了期の実習</li> <li>8 幼児食 (前期) の実習</li> <li>9 幼児食 (後期) の実習</li> <li>10 幼児食 (間食) の実習</li> <li>11 学齢期の栄養と実習</li> <li>12 思春期の栄養と実習</li> <li>13 疾病と食事 (食物アレルギー、偏食、肥満等)</li> <li>14 集団給食 (食事計画、管理計画等)</li> <li>15 試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小児栄養献立集」 (ななみ書房)</li> <li>・配布プリント</li> </ul>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位取得には8割以上の出席が必要</li> <li>・筆記試験と実技試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合</li> </ul>	

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) カウンセリング入門		授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者 田村 人志	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 選択		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングの視点から、他者を捉える。</li> <li>・自分自身について、今一度振り返る。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>カウンセリングにおける基本姿勢から、他者との関わり方を理解し、さらにいくつかの方法によって自分自身を見つめ、感情をコントロールする力を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>他者とのコミュニケーションを円滑にし、かつ保護者からの相談に対応する力を養う。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 カウンセリングマインド</li> <li>2 非言語について</li> <li>3 カウンセラーの態度</li> <li>4 自己分析Ⅰ～エゴグラムを使って～</li> <li>5 自己分析Ⅱ～S-HTP を使って～</li> <li>6 事例検討</li> <li>7 アサーションⅠ</li> <li>8 アサーションⅡ</li> <li>9 コンセンサスゲーム</li> <li>10 怒りのコントロール</li> <li>11 自己評価の高め方</li> <li>12 ストレスマネジメント</li> <li>13 保護者カウンセリング</li> <li>14 パーソナルスペース実験</li> <li>15 定期試験</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] なし (毎回プリントを配布します)			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合		